

Title	臨床死生学・老年行動学研究分野 活動報告
Author(s)	
Citation	生老病死の行動科学. 17-18 P.91-P.99
Issue Date	2014-03
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/36364
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

臨床死生学・老年行動学研究分野 活動報告

1. 研究会報告

本研究室では、月1回第1水曜日に中之島キャンパスにて研究会を開催している。
平成24年度は、下記の通り、7回研究会を開催した。

第15回 2012年4月11日

話題提供者：原田 和弘氏（早稲田大学 日本学術振興会特別研究員PD）

テーマ：「高齢者の筋力トレーニングと行動変容」

第16回 2012年5月9日

話題提供者：伊集院 睦雄氏（東京都健康長寿医療センター研究所）

テーマ：「認知症のスクリーニング 軽度例を早期発見するために」

第17回 2012年6月6日

話題提供者：野内 類氏（東北大学加齢医学研究所）

テーマ：「脳トレゲームが高齢者の認知機能の向上に及ぼす影響：ランダム化比較試験を用いた脳トレの効果の検証」

第18回 2012年7月4日

話題提供者：小森 昌彦氏（兵庫県立但馬長寿の郷）

テーマ：「地域ケアの在り方を考える ～自立を支援するために～」

第19回研究会 2012年10月3日

話題提供者：高野 裕治氏（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

テーマ：「海馬の機能と加齢」

第20回 2012年11月7日

話題提供者：熊野 道子氏（大阪大谷大学）

テーマ：「高齢者の生きがい形成」

第21回研究会 2012年12月5日

話題提供者：正木 信夫氏（ATR-Promotion）

テーマ：「ATRの脳研究のその支援」

平成25年度は、下記の通り、6回研究会を開催した。

第22回 2013年4月3日

話題提供者：小森 憲治郎氏（財団新居浜病院）

テーマ：「意味性認知症の臨床」

第23回 2013年5月8日

話題提供者：片桐 恵子氏（日本興亜福祉財団）

テーマ：「さまよえるサードエイジ ～社会参加研究からみた今後の可能性～」

第24回 2013年7月3日

話題提供者：安達 悠子氏（大阪大学人間科学研究科）

テーマ：「高齢者にとっての使いやすさを探る：地域在住高齢者を対象にした研究実施体制の中で」

第25回 2013年10月2日

話題提供者：石松 一真氏（滋慶医療科学大学院大学）

テーマ：「高齢者の行動を認知的加齢から考える」

第26回 2013年11月6日

話題提供者：日下 菜穂子氏（同志社女子大学）

テーマ：「ワンダフル・エイジング：認知行動療法に基づく生きがい創造プログラムによる地域での介入の実際とうつ・認知機能における効果」

第27回 2013年12月3日

話題提供者：安藤 孝敏氏（横浜国立大学）

テーマ：「都市の住宅団地における高齢化の現状と課題：高齢者の社会的孤立と支援の在り方」

2. 学位論文一覧

平成24年度は、下記の通り、学部生1名、博士前期課程大学院生4名、博士後期課程大学院生2名が学位論文を提出した。

卒業論文

中高年者の社会貢献と自尊感情に関する研究
重信 篤志

修士論文

中高年期の孤独感とソーシャルサポートの授受に関する研究
豊島 彩

がん患者の社会的関係性の変化に関する研究
松井 智子

予後告知に際するがん患者家族の心理的体験に関する研究
山木 照子

高齢期における展望的記憶遂行を支える認知処理と外的方略
山根 裕樹

博士論文

高齢期の認知機能に与える職業経験の複雑性の影響
石岡 良子

百寿者の認知機能に関する研
稲垣 宏樹

平成25年度は、下記の通り、学部生2名、博士前期課程大学院生5名、博士後期課程修士1名が学位論文を提出した。

卒業論文

高齢者の居住環境とwell-beingに関する研究
松原 由季

ペアデータを用いた祖父母・孫機能と祖父母・孫関係の関連
柳瀬 侑

修士論文

懐かしさ感情の生起メカニズムの検討

石井 あゆ美

高齢者施設における介護職員の看取りケア効力感に関する研究

久保田 彩

高齢期の余暇活動と認知機能に関する研究

小園 麻里菜

高齢者施設介護職員の専門職行動に関する研究

豊田 麻実

地域の社会関係資本と身体活動環境が高齢者の活動量に与える影響

美納 悠生

博士論文

故人との絆の継続が遺族の適応に及ぼす影響

中里 和弘

3. 業績一覧

平成24年度

【著書】

- Nakagawa, T. & Gondo, Y. (2012). Healthy aging and policy implications in Japan. In A. E. Scharlach & K. Hoshino (Eds.) *Healthy aging in sociocultural context* (pp. 53-61). London: Routledge.
- 佐藤眞一 (2012). 高齢者の認知症等への支援, 日本発達心理学会編／無藤隆・長崎勤責任編集『発達科学ハンドブック 6 発達と支援』新曜社, pp. 321-330.
- 佐藤眞一 (2012). 『認知症「不可解な行動」には理由がある』ソフトバンク新書.

【学術論文】

- 権藤恭之・広瀬信義 (2012). 百寿者からみだしあわせのかたち (特集 Happy People Live Longer!) アンチ・エイジング医学—日本抗加齢医学会雑誌 8 (3) 398-403.
- 広瀬信義・権藤恭之 (2012). 百寿者の医生物学側面と心理的側面 老年精神医学雑誌, 24(1), 43-51.
- Ijuin, M., Sugiyama, M., Sakuma, N., Inagaki, H., Miyamae, F., Ito, K., Kojima, N., Ura, C., & Awata, S. (2013). Walking exercise and cognitive functions in community-dwelling older adults: Preliminary results of a randomized controlled trial. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 28(1) 109-110.
- 石岡良子・権藤恭之・黒川育代・蓮花のぞみ (2013). 高齢者を対象とした聴力の主観評価尺度の作成 老年社会科学, 34(3) 317-324.
- Ito, K., Inagaki, H., Sugiyama, M., Okamura, T., Shimokado, K., & Awata, S. (2013). Association between subjective memory complaints and mental health well-being in urban community-dwelling elderly in Japan. *Garitr Garontol Int*, 13(1) 234-235.
- 伊藤正哉・中川 威 (2012). 高齢者ほど自分らしく生きている：老年的超越理論からみたエイジング・パラドックス アンチ・エイジング医学—日本抗加齢医学会雑誌 8(3), 370-374.
- Iwasa, H., Kai, I., Masui, Y., Gondo, Y., Kawaai, C., & Inagaki, H. (2013). Personality and body mass index in elderly people living the community in Japan. *Journal of Aging Research & Clinical Practice*, 1(3) 225-229.
- Nakahara, J. (2013). Effects of social activities outside the home on life satisfaction among elderly people living alone. *International Psychological Studies* 5(1) 112-120.
- Nakano, M., Sato, S. and Nakahara, J. (2012) Emotional experiences of the community-dwelling with mild cognitive impairment and their families. *Neuropsychological Trends*, 12, 117-124.
- 岡村 毅・井藤佳恵・金野倫子・稲垣宏樹・杉山美香・佐久間尚子・栗田主一 (2012). 都市在住高齢者の日中の眠気 日本公衆衛生雑誌 59(9) 675-683.
- 大西香代子・中原純・中野正孝・大串靖子・田中広美・藤井博英 (2012). 日本とイングラ

ンドの精神科看護師が経験している倫理的悩みの比較－MDS 尺度精神科版を用いて－
日本看護研究学会雑誌 3 (4), 101-107.

Robine, J. M., Herrmann, F. R., Arai, Y., Willcox, D. C., Gondo, Y., Hirose, N., Suzuki, M., & Saito, Y. (2012). Exploring the impact of climate on human longevity. *Experimental Gerontology*, 47(9), 660-671.

Robine, J. M., Herrmann, F. R., Arai, Y., Willcox, D. C., Gondo, Y., Hirose, N., & Saito, Y. (2013). Accuracy of the centenarian numbers in Okinawa and the role of the Okinawan diet on longevity: Responses to Le Bourg about the article "Exploring the impact of climate on human longevity". *Experimental Gerontology*, 48(8), 840-842.

田淵 恵・中川 威・石岡良子・権藤恭之 (2013). 高齢者の世代性および世代性行動と心理的Well-beingの関係－若年者からのフィードバックに着目した検討－ 世代間交流学会誌 2(1) 19-24.

田淵 恵・中原 純・権藤恭之 (2012). 高齢者による地域の子育て支援の受領・提供バリアに関する質的研究 高齢者のケアと行動科学, 12, 117-124.

Takahashi, F., Awata, S., Sakuma, N., Inagaki, H., Ijuin, M. (2012). Reliability and validity of A Quick Test of Cognitive Speed for detecting early-stage dementia in elderly Japanese. *Psychogeriatrics*, 12(2) 75-141.

山根裕樹・権藤恭之・蓮花のぞみ・石岡良子 (2013). メモの利用が高齢者の展覧的記憶に及ぼす補償効果の検証と効果的なメモの検討 応用老年学, 6(1) 50-58.

【その他】

佐藤眞一 (2012). 非日常の歓喜, おはよう21(中央法規出版), 23(2), 40-41.

佐藤眞一 (2012). アイデンティティの危機と怒り, おはよう21(中央法規出版), 23(6), 40-41.

佐藤眞一 (2012). 悲しみに堪えるところ, おはよう21(中央法規出版), 23(9), 40-41.

佐藤眞一 (2012). 認知症の人のポジティブ気分と「心の理論」へのケア, おはよう21(中央法規出版), 23(13), 40-41.

佐藤眞一 (2012). 「老い」－老年行動学が解き明かす, 兵庫県高齢者大学, 36(7), 5.

平成25年度

【著書】

藤田綾子・中原 純・狩谷明美・中里和弘・河村 諒・枝さゆり・長塚美和・久保尚子・竹村節子・大野知代 (2013). 高齢者のプロダクティブ・エイジング志向性尺度の開発と応用に関する調査研究 藤田綾子(著)プロダクティブ・エイジング志向性形成に向けて pp.4-22.

権藤恭之 (2013). 高齢者とヒューマンファクターズ(人工物との関係において) 心理学から考えるヒューマンファクターズ－安全で快適な新時代へ－ 篠原一光・中村隆宏(編著) 有斐閣.

権藤恭之 (2014). 百寿者からみた高齢期のしあわせのあり方 ゆたかなくらし 1月号18-

25.

- Gondo, Y., Arai, Y., Hirose, N. (2014). Wellbeing in the Oldest Old and Centenarians in Japan. Kirkwood, T. B. L., & Cooper, C.L. (Eds.), *Wellbeing: A Complete Reference Guide, Wellbeing in Later Life Vol 4. Wellbeing in Later Life*. John Wiley & Sons Inc. Pp275-286.
- Gondo, Y., Masui, Y., Inagaki, H., & Hirose, Y. (2014). How do we measure cognitive function in the oldest old? A new framework for questionnaire assessment of dementia prevalence in centenarians, Dementia and memory. Nilson, L. G., & Ohta, N. (Eds), Psychological Press. NY. pp97 -109.
- Gondo, Y., Nakagawa, T., & Masui, Y. (2013). A New Concept of Successful Aging in the Oldest Old: Development of Gerotranscendence and Its Influence on the Psychological Well-Being. ANNUAL REVIEW OF GERONTOLOGY AND GERIATRICS, 33(1), 109-132.
- 中里和弘 (2013). ホスピス・緩和ケア病棟の患者一家族で交わされる思い・言葉 について一患者一家族が伝え合う「ありがとう」を支えるために 恒藤暁・宮下光令・志摩泰夫 (編) 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究 2 (J-HOPE 2) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団pp.75-81
- 中里和弘 (印刷中). グリーフケア(遺族ケア)がん患者のところに寄り添うために一サイコoncロジーの基礎と実践 サイコoncロジスト編
- 生活・福祉環境づくり21 日本応用老年学会(柴田 博・安藤孝敏・川瀬健介・佐藤眞一・白澤政和・平林規好・渡辺修一郎) 編著 (2013). ジェロントロジー入門 社会保険出版社.

【学術論文】

- Arai, Y., Inagaki, H., Takayama, M., Abe, Y., Saito, Y., Takebayashi, T., & Hirose, N. (2013). Physical Independence and Mortality at the Extreme Limit of Life Span: Supercentenarians Study in Japan. *The Journals of Gerontology. Series A, Biological Sciences and Medical Sciences*, 1-9. doi:10.1093/gerona/glt146
- Benigni, A., Orisio, S., Noris, M., Iatropoulos, P., Castaldi, D., Kamide, K., Rakugi, H., Arai, Y., Todeschini, M., Ogliari, G., Imai, E., Gondo, Y., Hirose, N., Mari, D., & Remuzzi, G. (2013). Variations of the Angiotensin II type 1 receptor gene are associated with extreme human longevity. *AGE* 35, 993-1005.
- Dai, T., Davey, A., Woodard, J. L., Miller, L. S., Gondo, Y., Kim, S. H., & Poon, L.W. (2013). Sources of variation on the mini-mental state examination in a population-based sample of centenarians. *J Am Geriatr Soc.* 61(8), 1369-1376,
- Davey, A., Dai, T., Woodard, J. L., Miller, L. S., Gondo, Y., Johnson, M. A., Hausman, D. B., Martin, P., Green, R. C., Allen, R. H, Stabler, S. P., & Poon, L. W. (2013). Profiles of cognitive functioning in a population-based sample of centenarians using factor mixture analysis; Georgia Centenarian. *Exp Aging Res.* 39(2), 125-144.
- 権藤恭之 (2013). パーソナリティと長寿に関する研究動向 老年社会科学, 35(3) 374-383.

- 稲垣宏樹・井藤佳・佐久間尚子・杉山美香・岡村 毅・栗田主一 (2013) WHO-5 精神健康状態表簡易版(S-WHO-5)の作成およびその信頼性・妥当性の検討 日本公衆衛生雑誌, 60(5), 294-301.
- Iwasa, H., Kai, I., Masui, Y., Gondo, Y., Kawaai, C., & Inagaki, H. (2013). Personality and body mass index in elderly people living the community in Japan. *Journal of Aging Research & Clinical Practice*, 1(3), 225-229.
- 増井幸恵・中川 威・榎藤恭之・小川まどか・石岡良子・立平起子・池邊一典・神出 計・新井康通・高橋龍太郎 (2013). 日本版老年的超越質問紙改訂版の妥当性および信頼性の検討. *老年社会科学*, 35(1), 49-59.
- 中川 威, 榎藤恭之, 石岡良子, 田渕 恵, 増井幸恵, 呉田陽一, 高山 緑, 富澤公子, 高橋龍太郎(2013). 中高年期における感情調整の発達に関する横断的研究－年齢, 身体機能, 感情調整, 精神的健康の関係に注目して－ *パーソナリティ研究* 22(1), 13-22.
- 中川 威, 榎藤恭之, 増井幸恵, 石岡良子, 田渕 恵, 神出 計, 池邊一典, 新井康通, 高橋龍太郎(2013). 日本語版Valuation of Life(VOL)尺度の作成 *心理学研究* 84(1), 37-46.
- 大庭 輝・野内 類・高野裕治・高野春香・島内 晶・豊島 彩・佐藤眞一 (2014). 高齢期における食生活スタイルとソーシャルサポートの関連. *老年社会科学*, 35(4), 429-437.
- 大庭 輝・瀬戸京子・若井さおり・人見 純・丸山愛美・佐野弘子・上田香葉・酒井 隆 (2013). レビー小体型認知症にみられる興奮を伴う認知機能の変動に対するケアの工夫. *認知症ケア事例ジャーナル*, 6(3), 237-241.
- 佐藤眞一 (2013) 老年心理学からのアプローチによる認知症研究の基礎と応用, *発達心理学研究*, 24, 495-503.
- 佐藤眞一 (2013). 生涯発達と加齢, *認知症ケア事例ジャーナル*, 6, 348-350.
- Tabuchi, M., Nakagawa, T., Miura, A., & Gondo, Y. (in press). Generativity and interaction between the old and young: The role of perceived respect and perceived rejection. *The Gerontologist*.
- 田中真理・大川一郎・滝澤秀児・花澤美枝子・安齋龍二・村上健太郎・鶴岡美由紀・山田 樹・碧井 猛・山下剛司・乾真由美・玉井 智・榎本尚子・宮裕 昭・Lin Shuzhen・佐藤眞一 (2013) 認知症高齢者の痛みの訴え, 食事拒否, 義歯外し拒否への対応に関する実証的検討－他職種連携・協働による仮説検証型事例検討の試み－, *高齢者のケアと行動科学*, 18, 2-31.
- 豊島 彩・佐藤眞一 (2013). 孤独感を媒介としたソーシャルサポートの授受と中高年者の精神的健康の関係－UCLA孤独感尺度第3版を用いて－. *老年社会科*, 35(1), 29-38.
- 辻本 耐 (2013) 親は幼い子どもに対してどのように死を説明しているのか?－とくに死別場面に注目して－. *死の臨床*, 36(1), 157-162.
- 上野大介・榎藤恭之・佐藤眞一・増本康平 (印刷中) 顕在記憶指標・潜在記憶 指標を用いたポジティブ優位性に関する研究. *認知心理学研究*.

【その他】

- 川越正平・中里和弘・片山史絵・天野博・山口朱見・丹野直子・山崎 浩二・友松 郁子
(2013). あおぞら診療所 平成23年度在宅医療連携拠点事業報告. 日本在宅医学会, 15
(1), 137-146.
- 中里和弘・川越正平 (2013). がん緩和ケアにおける施設の役割に関する研究 1) 居住系施設
での看取りを推進するには、どうしたらよいか？
- 江口研二・森田達也・山岸暁美(編)OPTIM Report (2012) エビデンス提言：緩和ケア普
及のための地域プロジェクト報告書, 厚生労働科学研究費補助金：第3次対がん総合戦
略研究事業, 662-663.
- 佐藤真一 (2013). ⑨高齢期の認知・注意・記憶の発達と支援, 田島信元(監修)『DVD現代心
理学 発達と支援Ⅱ①～⑩』サン・エデュケーショナル.
- 佐藤真一 (2013). 認知症を理解する—ともに歩むために, 月刊福祉, 96(10), 54-55.
- 佐藤真一 (2013). 心理学と認知症, ほ～れば～れ(公益社団法人認知症の人と家族の会), 398
号, 12.
- 佐藤真一 (2013). 認知症の社会的認知機能, ほ～れば～れ(公益社団法人認知症の人と家族
の会), 404号, 12.